



日本の自動車関連市場は閉鎖的!?

改めてわかった自動車の非関税障壁 ～このままでは自動車分野もガラパゴス～

改めて米国、欧州から自動車分野で日本の市場は閉鎖的だと指摘されています。日本の政府も、日本自動車工業会も、自動車の輸入関税は「ゼロ」、日本の市場は開かれていると反論しています。どうやら原因は、欧米で基準を満たしている自動車部品が日本では認められないことにあるようです。

日本車と輸入車を交互に乗るとすぐわかるのですが、日本車のステアリング周りのスイッチで右手にあるのがウインカー、左手にあるのはワイパーです。輸入車は右手がワイパー、左手がウインカーと反対です。日本車に長く乗り続けている人が輸入車に乗ると、「乗りにくい」と感じることもあるはずですよ。

貿易を制限する措置として、輸入品に高い関税をかけて国内で売れないようにすることがあります。国内産業を保護する目的の政策で、農家を守るために米に高い関税をかけているのが好例です。

自動車・自動車部品の分野はかつて、国内産業を保護する対策を取っていましたが、競争力がつくとともに貿易の自由化が促進され、今では関税は「ゼロ」。輸送費はかかりますが、日本で売れないことはない状況です。しかし、日本車に長く乗り続けている人が、輸入車に切り替えようとして装置配置の違いで乗りにくいと思ったら購入者が増えることはありません。こうした関税以外に日本での販売を制限している要因を「非関税障壁」と言います。

ワイパースイッチが右手にあることは国際標準（ISO）で決まっています。これ以外にも日本車と輸入車を比べると、部品・装置類でさまざまな違いがありま

す。ドイツ車もフランス車も、欧州車はその構造・装置は同じ、米国車も同じです。それは国連欧州委員会（UN/ECE）で1958年に締結された多国間協定に基づく基準（ECE規則）に沿った構造装置、部品となっているからです。ECE規則をもとにさらに国際的な合意形成が進むとISOで規定されます。

日本は1998年にこの協定を締結しました。しかし、排ガス対策や安全面の構造・装置はECE規則に準拠していますが、国内法の整備が追いつかないことを理由にすべてを国内基準に受け入れていくわけではありません。ISOで決まっても、日本は独自の構造を採用しているケースもあるのです。

例にあげたステアリングスイッチなどはあまり問題になることはないですが、特殊な車両、CNG（圧縮天然ガス）車やLPG（石油液化ガス）車では、欧米仕様で輸入できないケースも生じて大問



スベアタイヤ形状のLPG容器。欧州では当たり前に使われているが、日本では規制が絡み使用不可

題。欧米では自動車部品として位置付けられるガスの燃料容器が、自動車の構造を決めている法律以外の規制対象となっているからです。燃料容器だけを輸入して部品で売り込もうとしても、規制する別の法律「高圧ガス保安法」で許可されなければ自動車に取り付けることはできません。

昨年秋、環太平洋経済連携協定（TPP）協議への参加を日本が表明した時、米国から改めて自動車分野でこの問題が蒸し返され、日本市場の閉鎖性が指摘を受けました。ECE規則の協定加盟国間相互で自動車の構造・装置として認めている127項目の案件中、日本で具体化したのが42件にとどまるのでは、「閉鎖的」と言われても仕方がないことです。

TPP協議の一方で、日本は中国、韓国との間で自由貿易圏を作る話を進めようとしています。中国、韓国も当然、自動車の構造・装置に関してECE規則を承認、これを基礎にしています。日本の自動車産業は高い国際競争力を持つだけに、国内基準を早くECE規則に沿ったものにしないと、こちらの交渉も暗礁に乗り上げる心配があります。

貿易交渉がごくしゃくすることも大変ですが、あまり世界と違いすぎると、自動車分野もいつの間にか「ガラパゴス状態」に。家電分野など同様に日本自動車産業の競争力が大きく落ち込むことになりかねません。「品質が高い」と言われている日本車の中古車も世界市場で相手にされないことになりかねない。こちらの方がもっと心配です。

東京オートサロンに過去最大、25万人超の来場者

カスタムカーで中古部品が大活躍



過去最高の来場者となった東京オートサロン2012

チューニング、カスタマイズの祭典「東京オートサロン2012 with NAPAC」が1月13～15日、千葉県の幕張メッセで開催されました。主催する東京オートサロン事務局の発表では、3日間の来場者数は25万5709人、昨年の24万3077人を上回り、過去最高の来場者を集めました。

若者の車離れが心配される一方で、車に格好よさや自分だけのオリジナルな1台を求めるユーザーはまだ多いようです。昨年末にトヨタ自動車が発売した「トヨタ86／スバルBRZ」にどのように手が加わり、変身しているかなど話題も多かったことも来場者を集めた要因のひとつです。

JARAでも若手のスタッフをレポーターとして熱気あふれるオートサロン会場に派遣しました。オートサロンを見るのは初めての体験だそうで、「一般ユーザー、業界関係者、さらには海外の方など予想以上に多くの来場者がおり、驚きました」と話しています。車市場の回

復のために自動車メーカー各社が力を入れていることで、トヨタ自動車でもスポーティなモデルの開発に力を入れているとのことで、「電気自動車やハイブリット車のような燃費が良い車でも、一般の人が乗れる安くて格好いいスポーツカーの開発に力を入れたい」と話していたそうです。

中古部品販売業界の視点で出展者ブースを回ったところ、自動車メーカー、用品などいずれも高い関心を持っていました。日本自動車大学校（NATS）のカスタマイズ科の学生さんたちは、自動車



「ソアラ」ベースで「バックトゥーザフューチャー」をイメージしたNATSの作品

中古部品インターネット販売サイト「RECOジャパン」のお客で、毎年オートサロンに多数のカスタマイズカーを出展しています。今回の作品にもRECOジャパンの商品を数々使っています。

RECOジャパンについてたずねたところ「低価格で高品質な中古部品が購入できるので大変便利で重宝している」と評価を得た一方、「ヒットしない部品がまだあるので在庫点数をもう少し増やしてほしい」とした要望があったそうです。

RECOジャパンのライバルと言える「UPガレージ」のブースにはマフラー、オーディオ、カーナビなど一般ユーザーが興味を持つものから足回り、機能系の商品までを展示していました。中古部品の相談コーナーを設けて専門スタッフが常駐、中古部品を購入するまでの流れや商品の品質・価格について一般ユーザーの方の相談を受けていたそうです。

オートサロンの来場者は、車に関心が高い層がほとんどで中古部品についての認知も高いです。中古部品のコアなユーザーと言えるのですが、こうした人たちから中古部品の買いやすさ、使いやすさが口コミで広がっていくと、中古部品の国内マーケットが拡大することになるかもしれません。



トヨタ「2000GT」がEVに大変身 エコカーも格好が大車

環境活動
支える

株式会社高橋商会
 株式会社大晃商事
 株式会社三森コーポレーション
 株式会社鴨下商店
 株式会社豊和自動車
 株式会社三重パーツ

ホームページ、広告、印刷から
 各種イベントまで対応します。

株式会社 イー・モーション

本社

〒540-0037

大阪市中央区内平野町1-1-5

Tel:06-4790-8922 Fax:06-4790-8923

東京オフィス 〒105-0003

港区西新橋1-12-6 富士annexビル7F

Tel:03-5510-1967 Fax:03-5510-6807

e-motion